

第1回未来型図書館を考える講演会について



01

日時・参加者・次第

【日 時】令和3年9月5日(日)13時30分～15時30分

【参加者】市内・県内外計158名

【次 第】市長挨拶 ▶ 講演 ▶ 質疑応答

02

講師：森田 秀之氏 プロフィール

東京都生まれ。1991年に株式会社三菱総合研究所入社。

2007年、株式会社マナビノタネを設立し、代表取締役として活動中。
宮城県の「せんだいメディアテーク」や、東京都の「武蔵野プレイス」、宮崎県の「都城市立図書館」など数多くの公共施設の開館に携わられている。

03

講演内容の概要

演題 「いきいきと生きるための図書館」

都城市立図書館は、中心市街地活性化事業として、元ショッピングモールをリノベーションし2018年に開館。森田氏は、開館の準備から、家具の調達、カフェの運営までを手がけてこられ、現在は管理運営の代表者となっている。九州産の楠で製作した木箱を書架の前に置いたり、いろいろな仕掛けを気づかせる案内板の設置、ショーケースを使った読みたい本の公開選書、さらには、静かな部屋・おだやかな席・こどものにわなど、運営の理念でもある「ひとりひとりが《だいじなもの》をみつけていくために」、本をきっかけに様々な場をつくり上げている取り組みを紹介いただいた。

また、長野県への移住を機に「自治が大事」という観点から、武蔵野プレイスのコンセプトづくりにおいて、知は図書館だけでなく現場にあるのではないかと、そういうことに気づくきっかけになる場所が図書館であり、課題やテーマを地域社会で共有し課題解決を図るためには、あらゆる人に来てもらう必要があるということで、青少年へのヒアリングも丁寧に行い、宿題からゲームまで自由に過ごせる居場所づくりの事例も紹介いただいた。

他にも、様々な活動や取り組みを紹介いただき、最後に、「『いきいきと生きるために』なくてはならない場を実現するとすれば図書館が一番近い存在ではないか、そうしていくことが大事」と話された。

質疑応答では、森田氏が最も大切にしている理念についての質問に対し、ある瞬間が積み重なって1日になり、1日が日々となって、一生になっていく。そういった良い時間・日々を過ごすことを想像できる場づくりを行っていきたくてと答えていただいた。

04

参加者の声

図書館の持つ役割の視野が広がった！

単に本を借りる場、勉強する場としての図書館ではなく、複合的な役割について理解を深める機会になった！

自分が抱いていたこれまでの図書館という概念が大きく覆された！ など多くの感想をいただきました

